



常設展示 羽生の文学と歴史

開催中!!

[会場] 羽生市立郷土資料館展示室
[期間] 令和6年3月2日(土)～5月6日(月・振替休日) 入館無料
[休館日] 毎週火曜日、第4木曜日

展示予告

企画展「羽生市70年のあゆみ」(予定)
会期 令和6年7月13日(土)～
9月29日(日)

羽生市は、令和6年(2024)に市制施行70周年を迎えます。これを記念して、



これまでの羽生市とその歴史をご紹介します展示を行います。

社寺調査

市内に所在する寺院所蔵の仏像・仏画類などについて調査を実施しています。令和5年度は、大字下村君にある「永明寺」様にご協力いただきました。

永明寺は、現在は真言宗の寺院で、不動明王を本尊としています。本堂裏手には、古墳時代中期末～後期始めに造られた前方後円墳があり、その墳頂上に薬師堂と文殊堂があります。永明寺の開基は未詳ですが、薬師堂本尊の薬師如来坐像(県指定文化財)には貞治六年(1367)の修理銘が記されており、室町時代始め以前までさかのぼる市内でも屈指の古刹です。また、羽生城主の広田直繁により、永禄六年(1563)に再興された記録があります(「武州文書」収録)。当初は上野国赤岩村(現群馬県中之条町)の光恩寺の末寺でしたが、江戸時代中ごろまでには、市内大字堤の延命寺の末寺となりました。



仏像の撮影作業の様子

調査は、本堂・文殊堂・薬師堂に安置された仏像や仏画類を中心に行いました。総点数は、約90点とこれまで調査を実施した寺院の中では最多となる数です。調査の内容は現在整理中ですが、文殊堂に納められている閻魔像の体内から木札が発見されました。木札には、造立年や補修年、仏師、奉納者などが記されており、閻魔像の来歴を知ることができました。詳細については、令和7年度に刊行予定の報告書で掲載します。

収蔵庫だより vol.3

今回ご紹介する資料は、建物の屋根に葺かれる瓦の製造に使われていた道具です。かつて、市内には、瓦を製造する瓦屋が複数ありました。当館に収蔵されている資料は、そのうちの一軒で、現在の西五丁目付近で操業していた「中田瓦店」で使われていた道具類です。創業者は中田源之丞で、創業年は不明ですが、大正15年の県内の瓦製造業者の一覧（『日本瓦業総覧全』）にはその名が確認できます。また、昭和56年の埼玉県瓦商工業協同組合連合会の名簿には掲載されていないことから、昭和40～50年代まで操業していたと思われる。

当館に収蔵されている中田瓦店の道具は6点。棧瓦と平瓦の成形台2点、この成形台を載せる回転台（轆轤）1点、形状を整える作業に使うカマ1点、瓦に付けられた文様の型2点です。このうち、瓦に文様を付ける型1点は、市内にある正覚院（南三丁目）の鬼瓦に付された寺紋（輪宝）の型で、昭和2年（1927）に造られたことが伝えられています。

国内での瓦の製造は、日本初の仏教寺院である飛鳥寺を創建するため、これに葺く瓦の生産からはじまりました。588年、朝鮮半島の百濟より職人を招き、製造にあたったことが、日本書紀に記されています（崇峻元年）。瓦はヨーロッパや東南アジアで古くから使われていたことが知られていますが、中国西周（紀元前11～7世紀）のものが最古とされており、中国から各地へ伝播したのと考えられています。

国内の伝統的な瓦葺きには、本瓦葺きと棧瓦葺きの2種類があります。本瓦葺きは、中国由来の瓦の葺き方で、丸瓦と平瓦により屋根の広い面が葺かれるものです。

一方で、棧瓦葺きはその名の通り棧瓦により屋根の広い面を葺くものです。棧瓦は、江戸時代前期の寛文11年（1671）、近江の瓦師西村半兵衛により考案された瓦がその祖型とされています（『西村家由緒覚書』天明5年（1785）、

大津市善福寺蔵）。ただし、同時期にはイギリスやスカンジナビア半島において、似た形状の瓦が使われていたことがわかっており、その誕生の由来は謎が残る瓦です。また、棧瓦は、丸瓦と平瓦を組み合わせる葺く本瓦葺きに対して、棧瓦だけで葺かれるため、建物にかかる重量が軽減され、本瓦葺きより安価に葺くことができます。現在のよう一般的な民家に瓦が普及することを可能にしたのは棧瓦のおかげとも言えます。

明治期以降、瓦製作に土練機やプレス成型機など機械が導入されるようになり、昭和期には全国の瓦工場で使われるようになります。当館に収められた中田瓦店の道具類は、いつ頃まで使われていたものかわかっていませんが、伝統的な作業の中で使われるもので、江戸時代の絵図にも出てくる道具です（『江戸名所図会』）。ある程度の形まで機械で作られ、最終的な整形で使われた可能性もあります。

今はなくなってしまった羽生市の工芸技術を伝える貴重な資料です。

（山崎）



回転台に載せた棧瓦の成形台



正覚院の鬼瓦の寺紋（輪宝）型